

財団法人 庭野平和財団 御中  
コード No.18-NPF-001

## 令和元年度

### 「JANIC 財務基盤強化とネットワーク NGO の連携強化のための 3 か年アクションプラン」 事業完了報告書

2020 年 5 月 15 日  
国際協力 NGO センター (JANIC)  
作成：伊藤衆子

## 1. プログラムの目的

### 目的

- ・ネットワーク NGO が必要な役割を果たし、日本の各地域において、市民の国際協力活動が活発化すること。

### 目標

- ・JANIC の財政基盤強化のため、将来的な収益事業となる自主事業を立ち上げ、本助成が終了する 2020 年 3 月までに軌道に乗せる。
- ・地域のネットワーク NGO との連携強化を推進する。それにより、NGO の政策環境の改善など、ネットワーク NGO が必要な役割を果たすための基盤をつくる。

## 2. 主な活動内容・スケジュール

### 【主な活動内容】

#### (1) 「HAPIC (ハピック) – HAPPINES IDEA CONFERENCE」

##### <概要>

- ①グローバルな社会課題解決に取り組むアクターが集い、国内外の重要・最新テーマについて議論、学習し、連携強化の場となる会議を 2030 年まで年 1 回開催する。セクターを超えた連携協力を得て、自律的な会議開催の体制を構築する。

- ②JANIC 事業の成果を HAPIC に、HAPIC の成果を参加者や JANIC 事業の次のステップに反映する循環をつくり、参加費や協賛金を増加させることで、JANIC の財務基盤強化の一策とする。

##### <活動内容>

- ・英米の成功事例、最新・重要テーマの研究、企画・運営手法の学習
- ・NGO ワーキンググループ制度を発展させ、ニーズや課題に沿ったテーマ設定
- ・企業等が参画しやすい協賛企画の設定

#### (2) CSO 支援プログラム

##### <概要>

- ①グローバルな社会課題解決を志す創設期の NGO/CSO (市民社会組織) を対象とし、組織・活動強化の支援を通して人材の発掘や育成に取り組む。
- ②交流・相談、業務体験、ネットワーク活動への参加の機会を提供し、人材育成を行う。

##### <活動内容>

- ・事務所ビルオーナー変更による利用条件調整：JANIC 職員駐在時のスペースレンタル許可
- ・オフィススペースレンタル実施
- ・支援希望団体・者には、ネットワーク会議や活動への参加機会提供
- ・グローバル課題や CSO の動向に関する国内外の情報を収集

### (3) 地域のネットワーク NGO との連携強化

#### <概要>

地域ネットワーク NGO との情報共有や事業連携を促進し、ネットワーク活動のインパクトの発揮・拡大を図る。

#### <活動内容>

- ・地域ネットワーク NGO の会議開催 (JICA と共に)
- ・相互会員化、情報共有の促進
- ・NGO の能力強化策についての事業連携の検討 (ワーキンググループ活用等)
- ・市民社会スペース NGO アクションネットワーク (NANSiS) としての提言書発行
- ・地域ネットワーク NGO との個別打合せ実施
  - ・NGO 福岡ネットワーク：7月
  - ・関西 NGO 協議会：10月、12月
  - ・名古屋 NGO センター：7月
  - ・北海道 NGO ネットワーク協議会：10月、1月

#### 【スケジュール】

施策	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月
(1) HAPIC	・企画	・協力依頼	・広報 ・開催準備	・HAPIC 開催 (2/14)
(2) CSO 支援	・事務所ビルオーナーと交渉	・NGO 待遇調査実施	・NGO 人件費単価調査準備・実施委託	・次年度オフィス利用受け入れ準備
(3) 地域ネットワーク NGO 連携強化		・個別会議	・合同会議開催 ・HAPIC 企画協力	・事業/業務連携試行 ・NANSiS 協力

### 3. 活動の成果

#### (1) HAPIC

- ・第1回 HAPIC を1日間開催し、314名の参加を得た。(目標300名以上)
- ・協賛・協力(ブース出展やセッション協働企画)を10法人以上から得た。(目標10組織以上)
- ・地域ネットワーク NGO から2団体の参加を得た。(目標4団体以上)
- ・アンケート回答者の81%が次回 HAPIC に参加したいと回答した。(目標:満足度が80%以上)
- ・新たな NGO ワーキンググループの新しい企画が開始された。



## &lt;第1回 HAPIC 概要&gt;

- タイトル：課題解決の先へ。HAPIC – HAPPINESS IDEA CONFERENCE
- 目的：グローバルな社会課題解決に関わるアクターが集い、学び、議論し、新しいアイディアやパートナーとの出会いを通して、社会課題解決を促進すること。
- 主要テーマ：「ブレークスルー」
- 開催日時：2020年2月14日（金） 9:30～17:30 懇親会 17:45～19:15
- 場所：KFC Hall & Rooms（国際ファッショセンタ） 東京都墨田区横綱1-6-1
- 構成：
  - ・最新動向ホットイシューがわかるセッション（グローバル課題解決で活躍する登壇者40名）
  - ・NGO・NPOとの連携やサービス提供を希望する企業によるブース出展
  - ・ランチ、コーヒーブレイク、懇親会でのネットワーキングタイム
- 助成：（独）環境再生保全機構、日本労働組合総連合会（連合）、（公財）庭野平和財団
- 協力：（有）トラスト、（特活）日本ファンドレイジング協会、（株）博報堂、（株）WORLD FESTIVAL
- 協賛：（特活）クロスフィールズ、（特活）テラ・ルネッサンス、（株）日本開発サービス、物品寄付型ファンドレイジングプログラム『お宝エイド』、（有）松田興業、リタワークス（株）
- 後援：（一社）SDGs市民社会ネットワーク、外務省、（特活）ETIC.、  
 （一社）グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、（独）国協力機構、  
 （一財）自治体国際化協会、（特活）ジャパン・プラットフォーム、（特活）新公益連盟、  
 （特活）日本NPOセンター、立正佼成会一食平和基金
- 主催：国際協力NGOセンター（JANIC）

## &lt;プログラム&gt;

9:30-11:30 オープニング セッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開会挨拶 木内真理子 JANIC 副理事長/ワールド・ビジョン・ジャパン 事務局長</li> <li>「共に生きる、サステナブルな社会を目指して」</li> <li>● キーノートスピーチ ライーズ・ベイグ (Raees Baig) アムネスティ・インターナショナル 香港支部理事/長香港中文大学 ソーシャルワーク学部 准教授</li> <li>● パネルディスカッション ライーズ・ベイグ (Raees Baig) 本木恵介 JANIC 理事長/かものはしプロジェクト 理事長 桑原進 外務省 国際協力局 審議官・NGO 担当大使 長谷川知子 日本経済団体連合会 SDGs 本部長 モデレーター 古田 大輔 ジャーナリスト/株式会社メディアコラボ 代表</li> </ul>
11:30-13:00 ランチ & ネットワーキング	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 最新動向をキャッチアップ！気候変動・生物多様性と持続可能な開発目標(SDGs)の今 遠藤理紗 「環境・持続社会」研究センター (JACSES) 事務局次長 三石朱美 JELF (日本環境法律家連盟) 事務局 井上寛人 Fridays For Future Tokyo 共同設立者 明治大学 情報コミュニケーション学部 2年 新田英理子 SDGs市民社会ネットワーク 理事・事務局長</li> </ul>

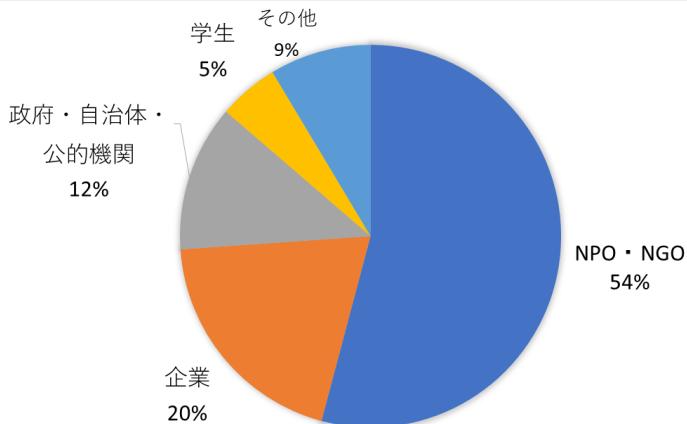
11:30-13:00 ランチ & ネットワーキング	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本の NGO 財務状況 中山雅之 国士館大学大学院 グローバルアジア研究科 教授</li> <li>●香港における民主化運動 ライーズ・ベイグ (Raees Baig) アムネスティ・インターナショナル 香港支部理事長/香港中文大学 ソーシャルワーク学部 准教授 トリニ・ルエン (Trini Lueng) 元オックスファム香港 事務局長 阿古智子 東京大学 大学院総合文化研究科 准教授（中国研究） モデレーター 若林秀樹 JANIC 事務局長</li> </ul>
13:00-14:30 ブレイクアウ トセッション ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>●チームの可能性を引き出す“システムコーチング” 原田直和 CRR Global Japan (同) 川島菜穂 日本青年国際交流機構 モデレーター：長浜洋二 モジョコンサルティング (同) 代表</li> <li>●コレクティブ・インパクトは、社会課題解決促進のエンジンとなるのか? 白木朋子 ACE 事務局長／共同創業者 三好恭平 JICA 産業開発・公共政策部 ガバナンスグループ 法・司法チーム 主任調査役 モデレーター：今田克司 CSO ネットワーク 常務理事</li> <li>●私たちは本当に安全な団体?～セーフガーディングの取り組み～ 子どもと若者のセーフガーディングワーキンググループ 細井なな チャイルド・ファンド・ジャパン 支援事業部リーダー 池内千草 ワールド・ビジョン・ジャパン 支援事業部 開発事業第1課プログラム・コーディネーター 成田由香子 ACE 事務局次長／子ども支援事業チーフ 山田直樹 JANIC メンバーシップ コーディネーター</li> <li>●変化する国際協力業界～NGO はどうなる? 小松豊明 シャプラニール＝市民による海外協力の会 事務局長 熱田典子 アジア協会アジア友の会 副事務局長/ネパール事務所長 柴田裕子 ジャパン・プラットフォーム 緊急対応部 部長 モデレーター：小沼大地 クロスフィールズ 代表理事</li> <li>●JICA が挑む国際協力のオープンイノベーション～JICA Innovation Questへの誘い～ JICA Innovation Quest 運営チーム (JICA 企画部イノベーション・SDGs 推進室)</li> </ul>
14:30-15:00	コーヒーブレイク & ネットワーキング

<p>15:00-16:30 ブレイクアウ トセッション ②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 5年間の 100%テレワーク実施で見えてきた！ 多様な働き方の秘訣と課題 佐藤真美 Earth Company 日本事務局長 小松紀子 Earth Company オペレーションディレクター</li> <li>● 市民社会スペース：CSO と ODA のパートナーシップを考える 高柳彰夫 フェリス女学院大学国際交流学部 教授 重田康博 宇都宮大学国際学部 教授 熱田典子 アジア協会アジア友の会 副事務局長/ネパール事務所長</li> <li>● 進化する人道支援：最新国際基準とキャッシュ支援 五十嵐豪 AAR Japan[難民を助ける会] プログラム・マネージャー 豊田光明 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 海外事業部副部長兼モンゴル事務所長 野際紗綾子 AAR Japan[難民を助ける会] 東京事務局 支援事業部マネージャー</li> <li>● Under 30：次世代 NGO がつくる未来 渡部カンコロンゴ清花 WELgee 代表 永井陽右 アクセプト・インターナショナル 代表理事 モデレーター：本木恵介 （特活）かものはしプロジェクト 理事長</li> <li>● 「ビジネスと人権」行動計画（NAP）が社会を変える！ 有馬利男 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ) 代表理事/富士ゼロックス（株）シニア・アドバイザー 南慎二 外務省 人権人道課長 高橋大祐 弁護士（真和総合法律事務所パートナー弁護士/ 日弁連弁護士業務改革委員会 CSR と内部統制 PT 副座長） 北郷美由紀 朝日新聞 記者 モデレーター：若林秀樹 JANIC 事務局長</li> </ul>
<p>17:00-17:30 クロージング セッション</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 来年も HAPIC で会いましょう！ 門田瑠衣子 JANIC 理事/エイズ孤児支援 NGO・PLAS 代表理事 山元圭太 JANIC 元理事/（株）Seventh Generation Project 代表取締役 Co-CEO</li> </ul>

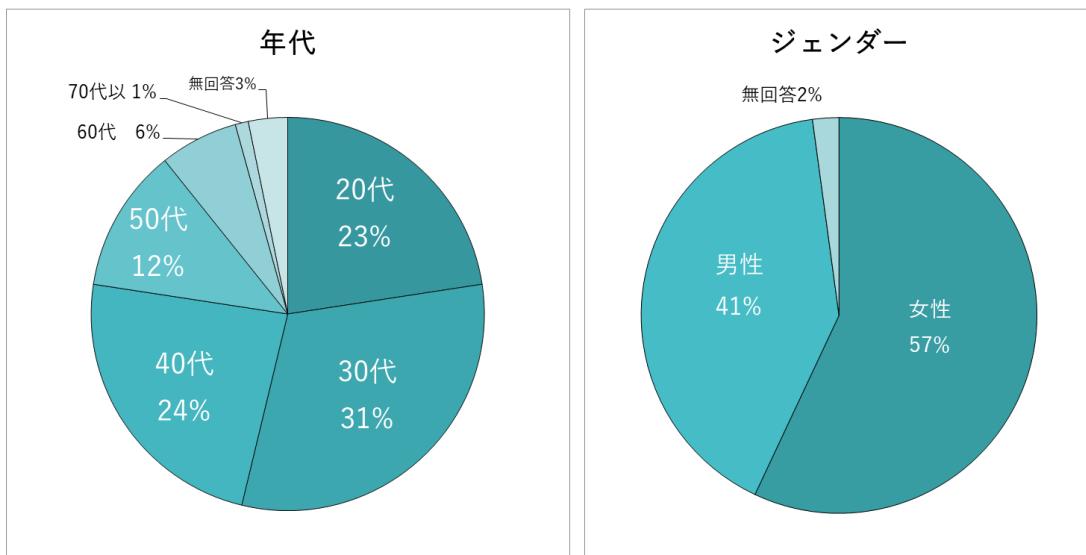
### <参加者>

■ 参加者数：314名（※スタッフ・インターン・ボランティア・アルバイト 25名除く）

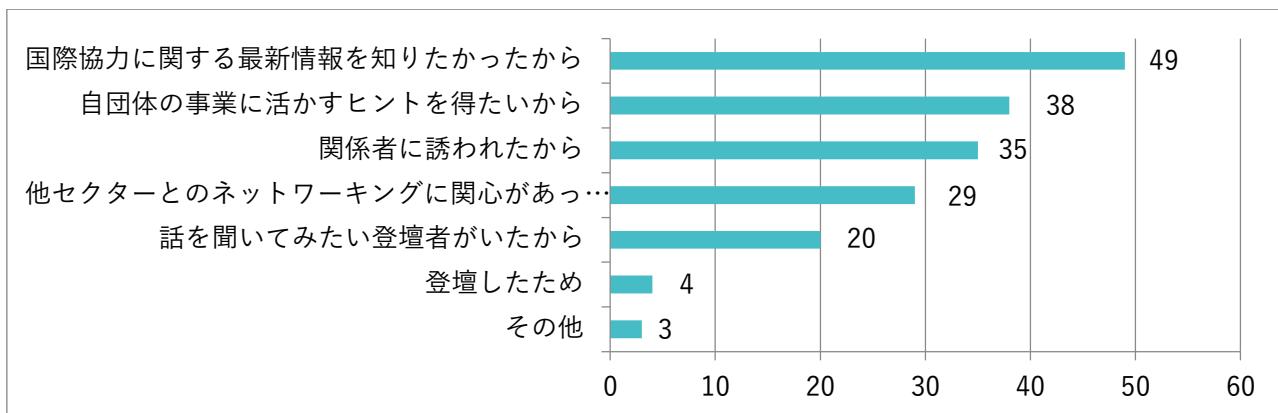
NGO、企業・社会的企業、政府・国連、自治体、財団、NPO、大学、学生、メディア



## ▶ 参加者年代・ジェンダー（アンケートより）



## ▶ 参加理由（アンケートより）



## (2) CSO 支援プログラム

- JANIC オフィス利用団体：4 団体、個人 1 名（目標 5 団体）

団体名	利用期間	人数	利用目的
アイキャン	2018/5~2019/4	2 名	東京事務所開設前の仮事務所として利用 (2020/6 から再利用開始)
NGO 安全管理イニシアティブ	2018/4~継続中	2 名（※内 1 名 JANIC 常勤）	事務局所在、JANIC 加盟団体との連携
C20	2018/11~2019/7	2 名（※内 1 名 JANIC 常勤）	事務局所在、JANIC 加盟団体との連携
JQAN	2019/4~継続中	1 名	事務局所在、JANIC 加盟団体との連携
韓国 NGO 研究者	2019/5~7	1 名	日本 ODA、NGO 研究のベースとして利用

- ビルのオーナーの変更（他社との合併）のため、事務所シェアに関する条件の制限ができ、事業開始時に想定していたシェアオフィスとしての展開が難しく、レンタルスペースとして再企画し、実績を蓄積した。
- 創設期の 2 団体の利用や支援の実現には至らなかった。
- NGO/CSO の活動強化のための国内外の情報を収集として、NGO 財務状況の調査と人件費単価の調査を行った。（情報発信は 2020 年度なる。）

### (3) 地域のネットワーク NGO との連携強化

- ・地域ネットワーク NGO 参加する会議（JICA 主催）の事務局を担当し、8 団体が参加、地域での NGO 活動強化策を議論した。（目標：7 団体以上が参加）
- ・一部ネットワーク NGO との相互会員化の下地ができた（北海道 NGO ネットワーク協議会、埼玉 NGO ネットワーク、関西 NGO 協議会）。
- ・市民社会スペース NGO アクションネットワーク（NANSiS）活動を継続した。
- ・アドボカシー、組織運営・事業実施能力強化での事業連携策については、地域の余力や関心が多様であるため、個別に情報共有・連携策を検討、試行した。
- ・地域ネットワーク NGO 連携強化企画案を提案し、その中で、ネットワークを活用した下記の情報共有、広報協力を実施できた。

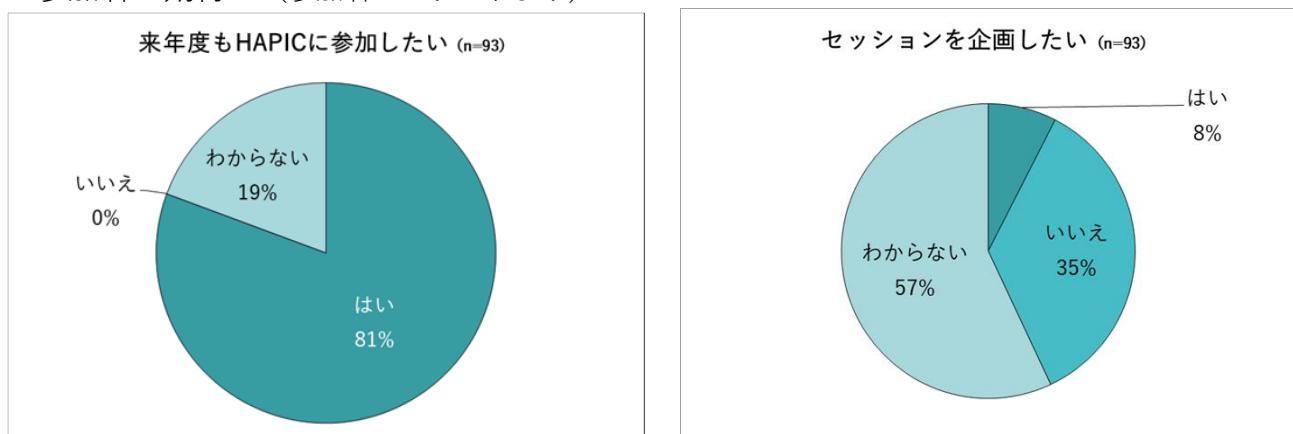
外務省/JICA との協議会の議題/参加者募集、市民社会スペース、NGO に関するアンケート実施、イベント開催情報、人員募集

## 4. 今後の課題

### (1) HAPIC

- ・オンラインなど社会状況や参加者ニーズに沿った開催形態の検討
- ・JANIC 収益事業とするための協賛・参加者規模の拡大に向けた魅力的プログラムづくり
- ・各地の CSO の活動の活性化につながるプログラムづくり
- ・NGO のワーキンググループ数と参加者の増加のための企画

<参加者の期待>（参加者アンケートより）



### (2) CSO 支援プログラム

- ・レンタルスペースとして利用団体受け入れ体制の整備
- ・19 年度の調査・分析結果の発信
- ・CSO キャパシティビルディングの現状調査（これまでのキャパビリ支援策の効果、セグメント別支援策案等）の実施
- ・新たな国際協力の担い手の発掘

### (3) 地域のネットワーク NGO との連携強化

- ・継続的な関係構築と、個別会議やテーマ別会議の設定
- ・オンラインでのワーキンググループ参加促進
- ・HAPIC セッションの共同企画

以上